

5. 将来像の実現に向けたマネジメント

5. 1 マネジメントシステム



息子(高校生)「みんなのグランドデザインだから、俺もなにかやってみたいな。」

父(50代) 「みんなで取り組まないと上手くいかないぞ。誰が何を進めるのか、関係する人たちがどんな人たちか、考えを整理しないと。」



息子(高校生)「そうだね、連携するにも役割分担や何から始めるのか、考えることはたくさんあるんだね。」

(1) 芽吹き始めた“まちづくりの新芽”

これまでは行政中心にまちづくりを進めてきましたが、昨今、府中市では、NPO 団体やまちづくり団体（以下、「団体等」という。）など、市民や団体等、民間事業者による取組・活動や官民連携による取組・活動が活発に行われ始めています。

グランドデザインに直接関わる取組としては、本グランドデザインの策定に合わせ開催した、「ふちゅう井戸端会議府中市グランドデザインワークショップ」（全3回）では、市内でまちづくり活動を行う市民の方を講師に招き、それぞれのテーマに基づき、まちなかの資源の活用やどんなまちにしたいかを話し合いました。その中で出たアイデアもグランドデザインの中に盛り込まれています。企画、運営は、市内のNPO 法人が担い、市内外問わず多くの方が参加されました。

その他に、次のような活動や取組が、“まちづくりの新芽”として芽吹き始めています。



ふちゅう井戸端会議
府中市グランドデザインワークショップ

2019

参加費：無料

申し込みフォーム：

まちは自分たちでつくろう。

まちの未来を自分たちでつくる？それは当たり前の事なんだけど、誰が任せにしている事がある。この「ふちゅう井戸端会議」には、未来をわくわくしながら一緒に考える場があります。

学び、ものづくり、コミュニティ、各分野で活躍している方をお招きし、みなさんと一緒に「どんなまちにしたいか」を話し合います。そして、その実現のために必要な仲間を募っていきます。

この「ふちゅう井戸端会議」で出たアイデアを参考にしながら、府中市のグランドデザイン（未来の構想）が描かれます！ぜひ、楽しみにして参加してください。

まなびの未来編
第一回
9/29(日) 13:00～16:00
場所：生涯学習センター(TAM) 府中市府中2-7-1
府中地区で、コミュニティを築き上げるための活動をおこなって、どのように地域に貢献を促しているのかを学びます。また、新しい学びを地域でどのように活かせるかを考えます。

立石克昭氏（府中市立府中初級中学校 学校運営協議会 会長）
昭和52年、タチシ山地区を創設。府中・瀬戸南中学校を創設。LED照明を使った展示「Katakiri」など、全国的な活動を行っています。近年は公立学校の学校運営協議会の会長を務め、学校を地域に開き、地域をフィールドにした教育の発展を模索し、実践に取り組んでいます。

ものづくりの未来編
第二回
10/5(土) 13:00～16:00
場所：府中地区工業所第3会議室 府中市元町4-4-5
デザインとコミュニケーションによるまちづくりを模索した「Katakiri」や、展示販売や、オープンファクトリーイベントの「Katakiri」など、新しい学びを地域でどのように活かせるかを考えます。

井上隆雄氏（西宮家具株式会社 代表取締役）
昭和22年創業の家具メーカー。昭和30年代から平成11年に、平成19年にアメリカの広域を使った展示「Katakiri」など、全国的な活動を行っています。近年は公立学校の学校運営協議会の会長を務め、学校を地域に開き、地域をフィールドにした教育の発展を模索し、実践に取り組んでいます。

コミュニティの未来編
第三回
11/10(日) 13:00～16:00
場所：生涯学習センター(TAM) 府中市府中2-7-1
まちの未来を自分たちでつくる？それは当たり前の事なんだけど、誰が任せにしている事がある。この「ふちゅう井戸端会議」には、未来をわくわくしながら一緒に考える場があります。

宗藤正典氏（キラリン商店 実行委員長）
平成21年、ワタシ、宗藤の工房に開設。現在は専任職員として、スクリーン印刷を得意とするスペースを、一般に公開する活動を開始し、近年は公立学校の学校運営協議会の会長を務め、学校を地域に開き、地域をフィールドにした教育の発展を模索し、実践に取り組んでいます。

実践者のゲスト講演

参加同士で未来の話

実現のための仲間づくり

これからの未来づくり

（ワークショップのポスター）



取組例1：石州街道出口地区まちづくり協議会／ まちなみの修景事業

歴史あるまちなみを活かし、建物の修景を行うとともに、積極的なイベント開催や観光ボランティア等の活動をしています。また、空き家・空き店舗のリノベーションによる活用も行っており、出口地区を歩く人が増えつつあります。



石州街道・出口地区に
おける修景箇所



取組例2：市民有志／キラリン夜店

年に1回、夏にお祭り広場にて、市民有志で祭りを開催しており、毎年考案する祭りの内容が地域の子どもたちに好評となっています。



取組例3：大型商業施設／ 行政機能(ネウボラ拠点)の導入

中心部にある大型商業施設を活用した行政機能の導入により、官民連携による賑わいづくりのための運営のあり方を検討しています。



取組例4：瀬戸内ファクトリービュー実行委員会／ 瀬戸内ファクトリービュー

府中・福山地域の約 20 の工場(木工・繊維・金属・味噌など)を見学できるイベント。素材や技術に触れられる、体験できるワークショップも開催。工場も地域の大きな魅力の一つとして知ってもらう機会を作ります。



取組例5：府中まちなか繁盛隊・府中商工会議所／ 一店逸品運動

府中市民をはじめ、多くの人に地元のお店のことを知っていただけるよう、各店が自信を持ってオススメする商品・サービスをアピールしていく「一店逸品運動」を行っています。



取組例6：市内スーパー／ぐるっとバス(市内循環バス)の利用者割引サービス

市内スーパーの提案により、市内を循環するぐるっとバスを利用して買い物した方への割引サービスを行うなど、官民連携による公共交通の利用が促進されています。



(2) みんなで“リノベーションまちづくり”の浸透

第3章に将来像として、『府中の本物（まんなか）を感じ、「楽しみ」「暮らせる」まち』を掲げています。その主旨にもある「リノベーションのまちづくり」は、古い建物を改修することだけではありません。リノベーションはRenovationと書き、つまり「Re-innovation」ということになります。イノベーションとは、新たなアイデアや価値を創造・発明することであり、リノベーションとは新たなアイデアや価値を創造しなおすということになります。この価値を創造しなおす過程において、市民のシビックプライドの醸成にもつながるものになります。また、「Re-generation」という意味合いもあり、再発見・再認識したアイデアや価値を次世代につないでいくという概念もあります。

「まちづくり」は、行政だけが行うものではなく、日々の暮らしの中で一人ひとりが始められるものです。自分のまちで楽しく暮らす工夫を続けることで小さな芽が市内に広がり、このまちを変えていくことがリノベーションまちづくりに繋がっていくのです。

(3) “官民連携まちづくり”を進める行政のスタンス・取組

1) 取組方針

上記、基本的な考え方を踏まえ、官民連携のまちづくりを進めるため、府中市役所は以下の方針で取り組みます。

- ① 「官」「民」それぞれにとっての相乗効果を生むようなまちづくりを行います
- ② 庁内組織で横断的な連携を図り、官民一体となって取組んでいきます
- ③ 市民、民間事業者、団体等が活動しやすいよう、全力で支援します

FUCHU TACHIMACHI TECH ACADEMY

府中 タチマチ テック アカデミー 実践講座

LINE、Google、Zoom などデジタルツールの使い方から応用講座。そして、専門家を活用してデジタルを活用した業務改善プランを参加者同士で磨き合う場を用意して、「デジタルに強い府中市」を一步進めます。

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、開催内容の変更が行われる場合があります。ご了承ください。

基礎編		応用編	
デジタルツール各種の効果的な使い方について、 知って体験していただける講座、一般・ビジネス 向けの講座。		ビジネスフローを加速させる各種デジタルツール の紹介と、課題に応じてすぐに使えるような解説 を行う。主に事業者向けの講座。	
Zoom, PayPay, Google for Education, Instagram, LINE		Chatwork, G suite, Sansen, CLOUDSIGN	
場所	定員	参加費	
府中商工会議所 広島県府中市元町4-45-1	各回 30 名	基礎編：無料 / 応用編：各回 2,000 円	



主催：府中市 後援：広島県 広島県教育委員会 府中市教育委員会 府中商工会議所 上下町商工会

新しい生活様式への対応として、民間提案により、デジタル化に向けたセミナー等を企画するなど、市民向けの取組みを始めています



■取組の概要

働き方改革や新しい生活様式に対応するために活用できる各種デジタルツールに関して周知し、情報格差の是正の一助とすることなどを目標に、市内の事業者や市民の誰もがITを容易に扱えるよう、年代や場面に合わせた適切なカリキュラム（セミナー）を開催しています。

【事例】 府中 ICT リテラシー普及促進事業「府中 タチマチテック アカデミー」の取組の様子

2) 具体的な取組

①官民がwin-winとなる官民連携まちづくりのフェーズ検討

昨今、府中市では、団体等や市民等、民間事業者による活動あるいは官民連携による活動が活発に行われ【種を蒔く段階】、少しずつではありますが、“活性化の芽”が芽吹き始めています。これらの活動を次の新たな活動の掘り起こしを誘発し、新たな活動へつなげていくことが重要です。

新たな活動の創出につなげるため、庁内に共創の窓口を設置し、民間事業者等からの様々な提案を受けて、地域の価値の創出と地域課題の解決を同時に図ります。また、この段階では、担い手の確保・育成を図るため、官民や民間企業間で情報共有・意見交換を行うための場の調整を図ります【芽が出始めた段階】。さらに、これらの活動・取組に関わる人材の育成や活動の実態化を図るため、各種支援を図ります【育てる段階】。その後、これらの活動により将来像が実現します【実る段階】。

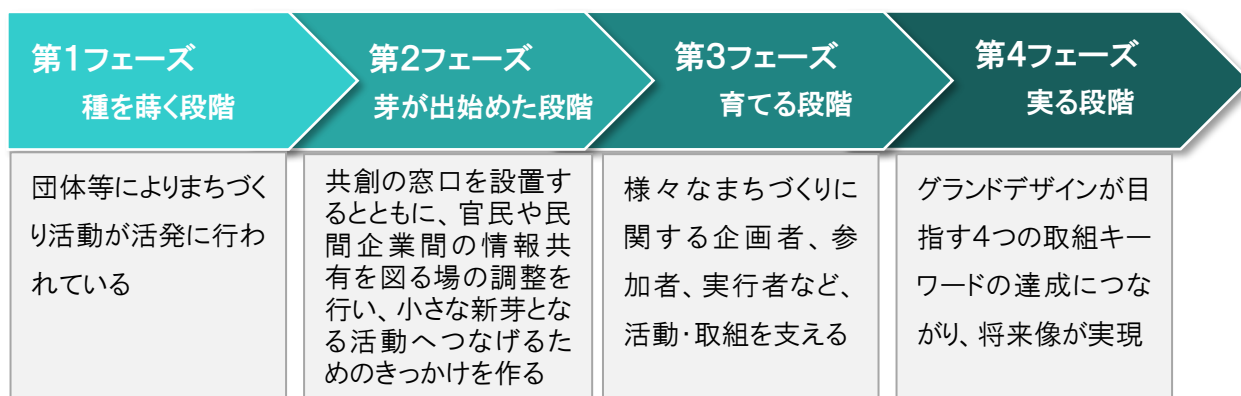


図 官民連携のまちづくりのフェーズ

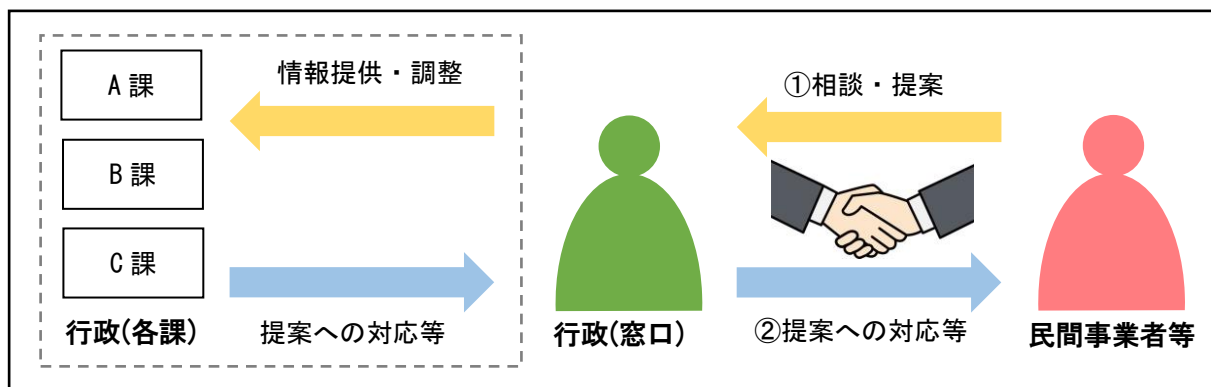
②府中市の魅力を共に創る庁内窓口の設置及び仕組みの構築

グランドデザインの実現に向けて、官民が一体となって府中市の魅力を共に創る必要があることから、まずはグランドデザインが目指す趣旨、方針に賛同する市民・民間事業者等の積極的な活動・取組提案等の支援を行うプラットフォームの構築を目指します。

具体的には、このような「共創のまちづくり」を推進するための庁内窓口を設置し、民間事業者等を受け入れながらまちづくりを推進するための仕組みを検討します。

また、窓口を設置することで、窓口機能（マッチング機能）に加えて、民間提案を受け入れ、実現化を図るための調整機能、事業化支援機能を果たします。その他に、民間事業者等主導による事業の取組やその成果を広く全国へ発信するプロモーション機能のあり方・仕組みを検討します。

■共創の窓口を設置した上で、民間提案に対して官民の共創で取り組む場合



■自治体の地域課題テーマを提示した上で、民間提案を受けて共創で取り組む場合

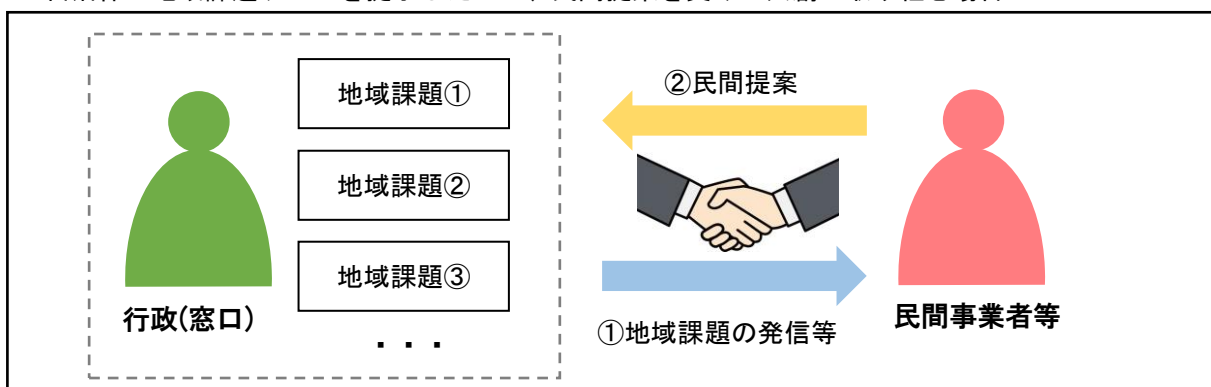


図 共創のまちづくり窓口設置による官民のマッチング

商業施設への施設導入・運営に関して、官民連携により民間のノウハウを活用し、既にリニューアルに向けた取り組みを始めています



■取組の概要

府中駅を中心とした中心市街地の拠点となり、市民の憩いの場となる施設に改修する事業として、若年層と子育て世代をターゲットに、フロア 2 階の一部のリニューアルを進めています。

【事例】 府中天満屋 2 階の活用検討イメージ

③エリアマネジメント推進体制の構築

本市では、グランドデザインの将来像を共有し、個々の取組を具体化したプロジェクトをマネジメントするため、市民、民間事業者、団体等、行政等の官民連携による推進体制を構築します。

今後の都市再生・市街地整備は、都市機能を確保するための開発から、“価値”や“持続性”を高める複合的な更新を図る必要があります。JR 府中駅周辺を中心にした事業実施後のエリアマネジメント活動等の展開を視野に入れた市街地整備を推進する必要があります。

府中市を支える様々な業種・業態から民間事業者の参画と、地域づくりを進める NPO 法人、団体等、自治会等が加わったエリアマネジメント推進組織の設立や自律的な活動を支援するとともに、多様な地域活動との連携を図ります。

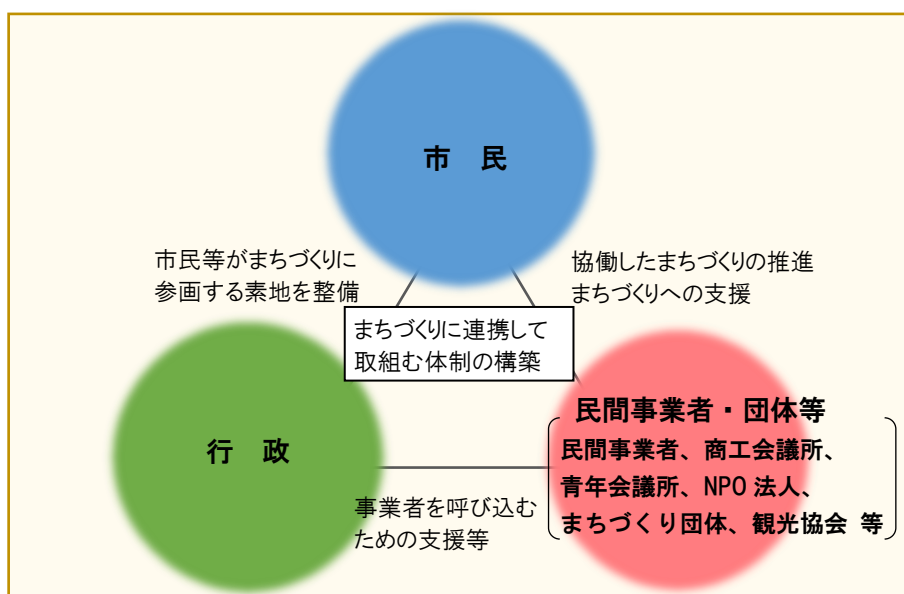


図 エリアマネジメント推進体制の構築（例）

エリアマネジメント推進体制の構築によるグランドデザインの実現に向けた官民の主な役割分担を示します。市民、民間事業者、団体等、行政ともに、担い手の確保・育成を図ることが重要です。

行政は、府中市に民間事業者を呼び込み、参画しやすくなるような環境整備を中心に担うことが求められ、市民、民間事業者、団体等は、保有する技術やノウハウ、知見等を活かして積極的にまちづくりに関わっていくことが求められます。

【官民の主な役割】

民間事業者・市民等

- 地域活動への積極的な参加
- まちづくり活動への参画
- ビルや空き店舗等のコンバージョン・リノベーションの提案
- 低未利用地の活用提案
- 人材を育て活かす
- 情報発信

等

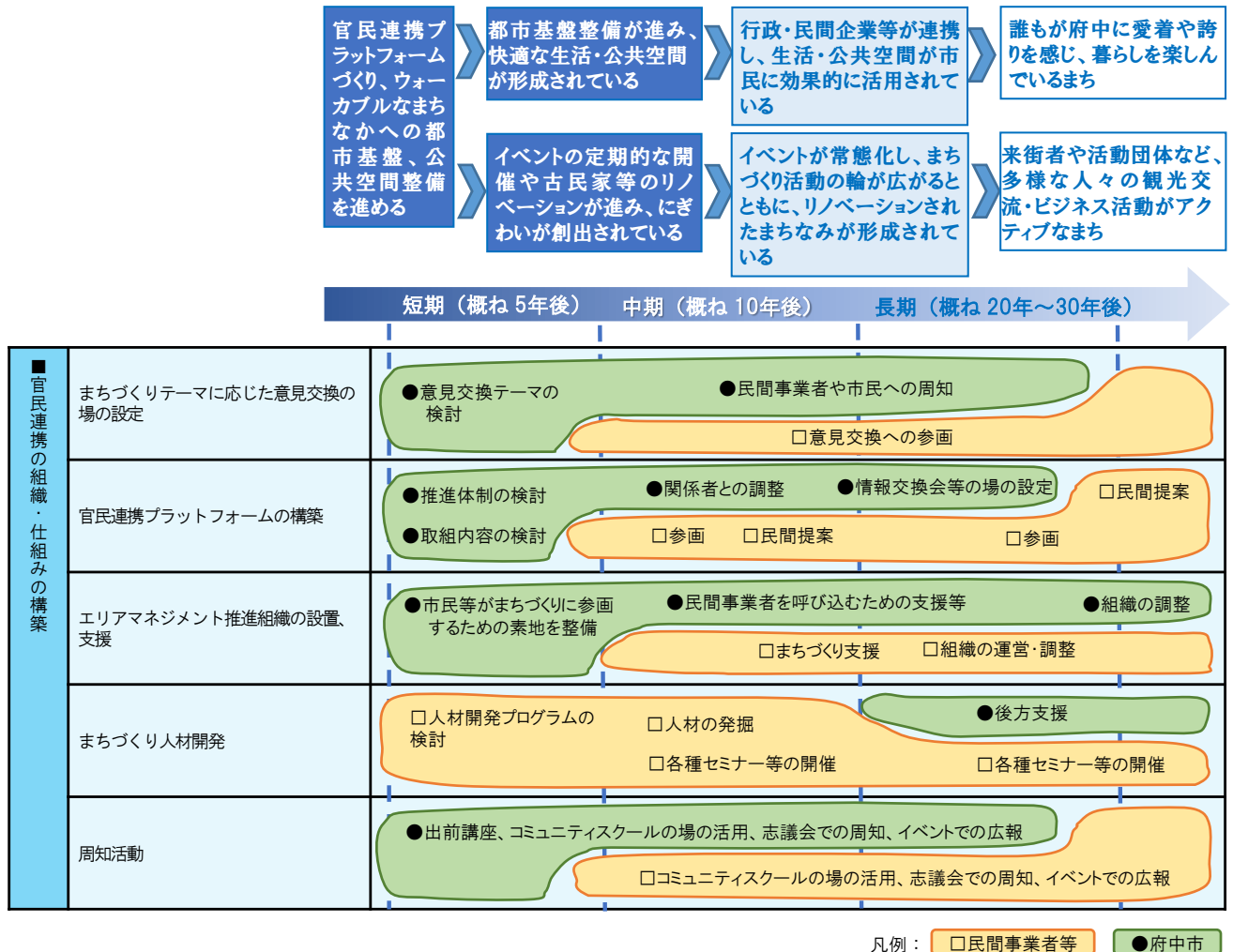
行政

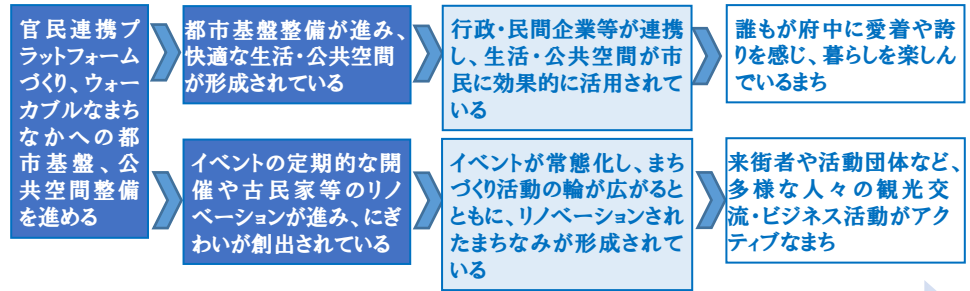
- 道路や公園等の基盤整備
- インパクトのある施策・事業の実施
- 法規制等や各種まちづくりに関するガイドライン等の見直し検討
- 関係機関の調整・コーディネート
- 人材を育て活かす
- 各種勉強会や意見交換会等の場の提供

等

(4) 将来像の実現に向けた取組のロードマップ

グランドデザインの目指すまちの姿を実現するため、市民の暮らしやすさの視点、訪れる人々や受け入れる人々の視点から、各取組の概ねの時期と官民の役割別にロードマップを示します。





		短期（概ね 5年後）	中期（概ね 10年後）	長期（概ね 20年～30年後）
■にぎわいと交流のエリア	ゆとりとくつろぎの広場・空間づくり	●広場等整備 □活用提案・社会実験		
	駅周辺への商業施設・公共施設の集積		●公共施設整備、民間支援 □商業施設集積	
	子育て支援機能や学習・研究・交流機能の導入	●ネウボラ、賑わい拠点整備 □大型店舗リニューアル	□運営、イベント展開	
	JR府中駅のリニューアル	●関係者協議 ●整備構想 □リニューアルに向けた提案	●設計 ●整備	
	空き店舗のリノベーション、空きビル等のコンバージョン		●リノベーション等支援 □リノベーション展開	
	健康増進施設機能の導入	●施設整備	□施設運営	
	図書館及び駅前通りファサード整備	●施設整備 □施設運営		
■子どものMIRAI創造エリア	水辺や風を感じ、自然と親しむ空間を活用した賑わいづくり	●かわまちづくり計画策定 ●水辺の賑わいづくり、法規制等整備 □河川空間活用		
	アーバンスポーツの充実等を図る、運動・交流機能の導入	●こどもの国公園整備	□運営、イベント展開	
	「にぎわいと交流のエリア」とを連絡する楽しい歩行空間づくり	●POM小路整備	□道路空間活用イベント等の展開	
	トップアスリートと交流できる環境づくり	●プロスポーツチーム等との交流 □イベント等開催		
■多様な人々の交流・滞在によるアクティブエリア	空き家等のホテルやカフェ等への転用など、多様な人々の交流・滞在空間の創出	●関係機関調整、支援 □企画、提案 □地元調整 □リノベーション展開		
	ものづくり工房やアトリエ等の市民に開かれた“ものづくりの場”の展開	●関係機関調整、支援 □企画、提案 □地元調整 □ものづくりの場の展開 □瀬戸内ファクトリービュー等の取組み展開		
	回遊性を高める歩行者空間のウォールアート化や空き店舗等を活用した市民アートギャラリー化の推進	●アーティストインレジデンス事業 ●滞在場所の検討	□まちなかアートの展開	
	まちなみの風情を活かした空き家等の柔軟な利活用・リノベーション支援	●町並みリノベーション方針検討 ●地元調整、修景支援	□リノベーション展開	
	歩いて楽しい歩行空間づくり	●ウォーカブル区域構想、法規制等整備、公共空間整備	□空間活用提案、イベント等展開	
■歴史・文化的記憶の継承エリア	歴史の掘り起こし	□●調査、発掘、研究、活用、大学等との連携		
	歴史・文化学習の場としての整備・開放	●史跡広場整備、史跡開放 ●拠点施設整備、施設活用	□●史跡活用、学習イベント展開	
	歴史・文化散策ルートの整備	●ルート選定、整備 □地域ガイド、旅行会社連携		
	市民活動の組織化	□●歴史文化研究会の組織化		

凡例： □民間事業者等 ●府中市

5. 2 検証・見直し

本章で示すマネジメントシステムについて、評価・検証を繰り返しながら、第1章で示す「目的から導く4つのキーワード」を念頭に置いた将来像の着実な実現を図ります。

本計画では、将来像の実現に向け、必要に応じて適宜、計画内容の見直し・変更を行うものとします。

また、計画の実効性を高めるため、PDCA サイクル（Plan（計画）－Do（実施）－Check（検証）－Action（改善））により、官民が一体となって将来像やエリアコンセプトの実現に向けた達成度の検証、必要に応じて計画・施策内容の見直し・改善を行い、効果的・効率的な施策の実現を目指します。

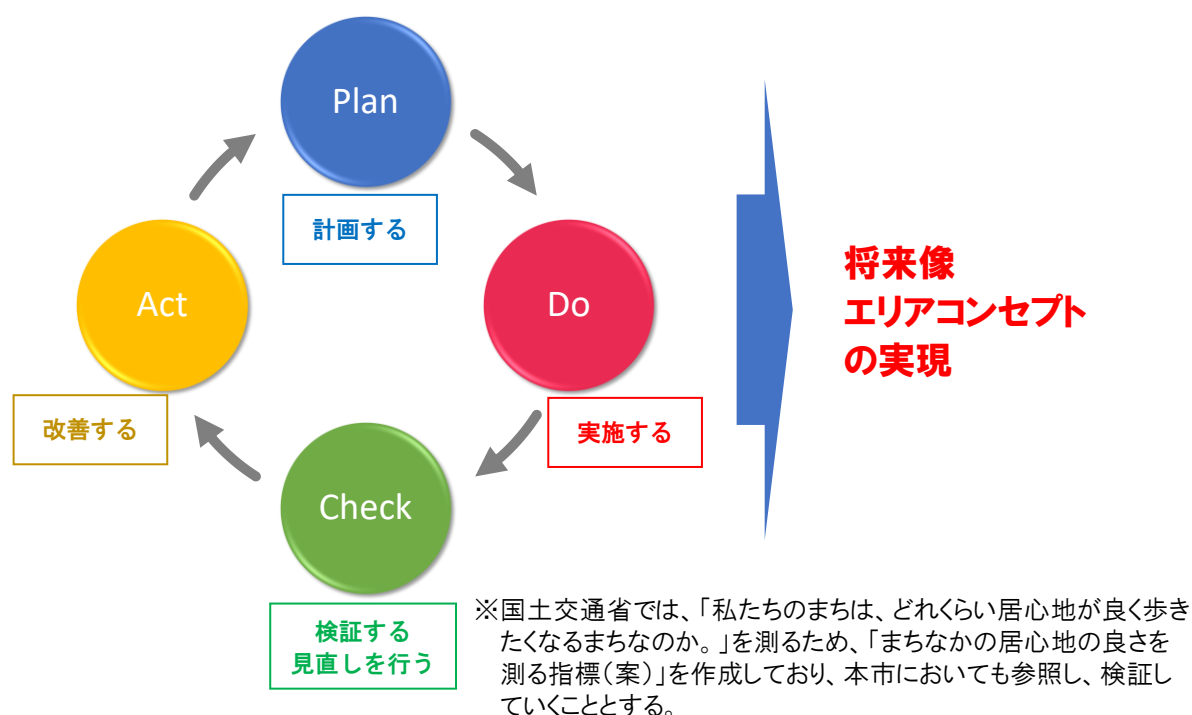


図 PDCA サイクルによる計画の検証・見直し方針の概念

	娘(20代)	「将来に向かって、様々な立場の人が協力しあうことで、まちづくりは進んでいくんだね。私も色々考えるきっかけになったわ。」
	父(50代)	「そうだな、市民としても企業人としても頑張らないといけないな。」
	母(40代)	「この10年、20年で大きくまちが変わろうとしてるわね。お母さんでもできることはやっていこうと！」
	息子(高校生)	「グランドデザインで目指すべき将来像もわかったし、多くの人が関わることで、素晴らしいまちになっていきそうな予感がする。俺も自分にできることから始めていこうと！」

